

講義名	日本文化論			授業形態	
担当教員	藤原 喜美子	開講期・曜日・時限	後期 金曜日 2時限		
		単位数	2	履修開始年次	1年生

主題と概要

テーマ：日本の日常生活（生活文化史）の特色
この講義の目的は、日本の文化にねざす民俗(日常生活)の特色を学ぶことにある。文化は文字に記されている史料以外に、文字に記されていない民俗資料からも窺える。例えば、家や地域に伝わる習慣や言い伝え(伝承)が、私達の日常生活の特色を知る手段になる。そこで、日本の日常生活の中で受け継がれてきた項目を具体的に取り上げ、講義を進める。

到達目標

学生が、講義の内容を理解した上で、自分の日常生活の特色(地域性)に気付き、興味のある事柄を見つけ、自らの言葉で説明できるようになる。

提出課題

講義では毎回、講義内容に関わる感想文などを記入し、小レポートとして提出してもらう。
感想文のテーマは、講義ごとに伝える。
小レポートとは別に、講義に関連した指定のテーマについて、学期末レポートの提出を求める。
学期末レポートの詳細は別途、12月前半に、講義中の説明ならびにRYUKA portal「キャンパスクロス」の掲示を通して指示する。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

毎回の講義に書いてもらう感想文の内容は、提出後に次の回の講義などで、日本の日常生活の事例として紹介する。

評価の基準

評価は、平常点（各回の感想文などを記した15回分の小レポート、60点）、学期末レポート（40点）を総合して行う。
評価の基準は、第1回の講義の時にシラバスの用紙を配付し、詳細を伝える。

履修にあたっての注意・助言他

予習や復習で調べた内容や講義中に大事なと思う箇所は、メモをとること。
講義中に私語をして、他の人の受講の妨げにならないように注意すること。

教科書

.使用しない。

参考図書

.なし。

その他

<プリント資料>
各回毎、プリント資料を配布する。
プリント資料は無くさないように保存すること。
<参考文献>
講義中に適宜、紹介する。

授業計画

講義の進め方の詳細は、第1回の講義の時に説明する。

1. 日本文化とは
生活文化史をどのようにとらえるか
2. 住居
地形や気候に応じた各地の住まい
3. 衣服
水鏡の登場
4. 食制
八ッ日の食事
5. 生業
海や山で仕事をす人々
6. 贈与・社交
社会と人々
7. 労働・村構成
コイの心
8. 人生儀礼
誕生・婚姻の儀礼
9. 人生儀礼
葬送儀礼
10. 年中行事
大正月と小正月
11. 年中行事
お盆
12. 神祭
神祭を行う人々
13. 舞・踊・競技
盆踊り・初風の風習
14. 言語表現
命名・民俗語彙のもつ意味
15. 心象指象
民間信仰

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

予習
次回の講義範囲の準備学習として、シラバスの授業計画に記してあるテーマを確認し、そのテーマについて興味のある事柄を1つ調べる。また、各回の講義の最後に、翌週の講義のキーワードを紹介するので、翌週までにキーワードなどの言葉の意味を調べておく（約2時間）。

復習
講義終了時、その日の講義内容を確認しながら、内容に関わる感想文を出席カードに記入する。また、各自で、その日の講義の要点（キーワードやポイント）等を確認する（約2時間）。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

この授業は、全学共通科目の教養科目として、上記の主題と概要、到達目標の修得を通じて、本学のディプロマ・ポリシーのうち、特に次のような人材を育成することに貢献できる。
(2) 知識を知能に転換することができる。論理的思考力を持った人材
・ 課題発見・課題解決に必要な情報を見定め、適切な手段を用いて収集・調査・整理することができる(情報収集力)
・ 収集した個々の情報を多角的に分析し、現状を正確に把握することができる(情報分析力)
・ 現象や事象のなかに思われている問題点やその要因を見出し、解決すべき課題を設定することができる(課題発見力)
・ さまざまな条件・制約を考慮して、解決策を吟味・選択し、課題の解決に向けた道筋や段取りを明らかにした上で、具体化することができる(構想力)

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

この講義は、プリントを用いた講義の形式で進める。

実務経験の有無及び活用

実務経験あり。授業担当者は日本民俗学（生活文化史）に関わる現地調査や文化財保護業務の実務経験を有しており、その実務経験を活用して授業を行う。

備考

《受講生へのメッセージ》
この講義では、日本の私達の日常生活が、すべてテーマになる。そのため、目頃から自分の周囲の生活に関心を持ってもらいたい。
また、日常生活における自らの体験談、他の人から教わった話も貴重な資料になる。各自が「当たり前と思う日常生活」には、「地域ごとの特徴がある」ということ気付いていただきたいと思う。